

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)安城市大東町商業施設計画(駐車場棟A)	階数	地下0階地上6階
建設地	愛知県安城市大東町1058-2の一部	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	0人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,750時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年3月 予定	評価の実施日	2023年9月20日
敷地面積	11,240 m ²	作成者	菅野 友弥
建築面積	3,929 m ²	確認日	2023年9月20日
延床面積	23,321 m ²	確認者	平野 譲

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み #DIV/0!

③上記+②以外の #DIV/0!

④上記+ #DIV/0!

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">3.0</p> <div style="text-align: center;"> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="font-size: 1.5em;">31.1 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="font-size: 1.5em;">0.0 %</p> </div>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">2.8</p> <div style="text-align: center;"> </div>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 (仮称)安城市大東町商業施設設計画(駐車場棟A)

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:
 ■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
	重点項目								建物全体・共用部分	建物全体・共用部分
Q 建築物の環境品質									2.6	
Q1 室内環境									-	
1 音環境									-	
1.1 室内騒音レベル									3.0	
1.2 遮音									-	
1 開口部遮音性能									-	
2 界壁遮音性能									-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									-	
1.3 吸音									-	
2 温熱環境									-	
2.1 室温制御									-	
1 室温									3.0	
2 外皮性能									3.0	
3 ゾーン別制御性									3.0	
2.2 湿度制御									3.0	
2.3 空調方式									3.0	
3 光・視環境									-	
3.1 昼光利用									-	
1 昼光率									3.0	
2 方位別開口									-	
3 昼光利用設備									3.0	
3.2 グレア対策									-	
1 昼光制御									5.0	
3.3 照度									3.0	
3.4 照明制御									3.0	
4 空気質環境									-	
4.1 発生源対策									-	
1 化学汚染物質									3.0	
4.2 換気									-	
1 換気量									3.0	
2 自然換気性能									3.0	
3 取り入れ外気への配慮									3.0	
4.3 運用管理									-	
1 CO ₂ の監視									3.0	
2 喫煙の制御									3.0	
Q2 サービス性能									2.9	
1 機能性									-	
1.1 機能性・使いやすさ									-	
1 広さ・収納性									3.0	
2 高度情報通信設備対応									3.0	
3 バリアフリー計画									3.0	
1.2 心理性・快適性									-	
1 広さ感・景観 (天井高)									3.0	
2 リフレッシュスペース									3.0	
3 内装計画									3.0	
1.3 維持管理									-	
1 維持管理に配慮した設計									3.0	
2 維持管理用機能の確保									-	
2 耐用性・信頼性									2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振									0.5	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)									0.4	
2 免震・制震・制振性能									3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数									0.52	
1 躯体材料の耐用年数									0.48	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔									3.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									3.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									0.3	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									3.1	
6 主要設備機器の更新必要間隔									0.33	
2.4 信頼性									-	
1 空調・換気設備									0.1	
2 給排水・衛生設備									2.6	
3 電気設備									0.19	
4 機械・配管支持方法									3.0	
5 通信・情報設備									3.0	
② 床:ビニル床シート、壁:複層仕上げ塗材、天井:ボード類 ② 2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用 ② 耐震クラス:Sクラス									3.0	
1 耐震性(建物のこわれにくさ) 3.0 2 免震・制震・制振性能 3.0 3 躯体材料の耐用年数 3.0 4 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.0 5 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 4.0 6 空調換気ダクトの更新必要間隔 3.0 7 空調・給排水配管の更新必要間隔 5.0 8 主要設備機器の更新必要間隔 3.0 9 空調・換気設備 3.0 10 給排水・衛生設備 1.0 11 電気設備 3.0 12 機械・配管支持方法 3.0 13 通信・情報設備 1.0									0.80	
1 免震・制震・制振性能 0.20 2 躯体材料の耐用年数 0.23 3 外壁仕上げ材の補修必要間隔 0.23 4 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 0.09 5 空調換気ダクトの更新必要間隔 0.08 6 空調・給排水配管の更新必要間隔 0.15 7 主要設備機器の更新必要間隔 0.23 8 空調・換気設備 0.20 9 給排水・衛生設備 0.20 10 電気設備 0.20 11 機械・配管支持方法 0.20 12 通信・情報設備 0.20									0.20	

3 対応性・更新性				0.4	2.8	0.48	-	-	-	2.8
3.1 空間のゆとり				0.3	2.2	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり			-	1.0	0.60				
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率:0.3未満	3.0	4.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31				
3.3 設備の更新性				0.3	3.3	0.38				
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.19				
2	給排水管の更新性		構造部材、仕上材を痛めることなく更新・修繕が可能	3.0	5.0	0.19				
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.13				
4	通信配線の更新性			3.0	-	-				
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.25				
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.25				
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57				2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	3.0	0.30				3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	2.0	0.40				2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30				2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	2.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性										3.0
LR1 エネルギー					-	0.40				3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-				-
2 自然エネルギー利用				3.0	-	-				-
3 設備システムの高効率化			BEI=	3.0	-	-				-
4 効率的運用				1.0	3.0	1.00				3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00				
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50				
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50				
集合住宅の評価				-	-	-				
4.1	モニタリング			-	-	-				
4.2	運用管理体制			-	-	-				
LR2 資源・マテリアル					-	0.30				2.8
1 水資源保護				0.1	2.2	0.15				2.2
1.1 節水				3.0	1.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60				
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67				
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.7	0.63				2.7
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.21				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	1.0	0.21				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と内装材は容易に分離可能	3.0	4.0	0.25				
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.6	0.22				3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68				
1	消火剤			-	-	-				
2	発泡剤(断熱材等)		発泡系断熱材の使用なし	-	5.0	0.50				
3	冷媒			3.0	3.0	0.50				
LR3 敷地外環境					-	0.30				3.3
1 地球温暖化への配慮		①	#DIV/0!	-	-	-				-
2 地域環境への配慮				0.5	3.4	0.50				3.4
2.1 大気汚染防止			燃焼機器の使用なし	-	5.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.7	0.25				
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25				
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25				
3	交通負荷抑制	独自	十分な駐輪・駐車台数を確保	-	4.0	0.25				
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				0.5	3.2	0.50				3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40				
1	騒音	独自		-	3.0	1.00				
2	振動	独自		-	-	-				
3	悪臭			-	-	-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40				
1	風害の抑制			-	3.0	0.70				
2	砂塵の抑制			-	-	-				
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				0.2	4.4	0.20				
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		屋外照明・広告物照明はチェックリストの過半を満足	-	5.0	0.70				
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30				

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)安城市大東町商業施設設計画(駐車場棟A)

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.17	外構緑化:31.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)安城市大東町商業施設計画(駐車場棟A)

計画上の配慮事項	
総合	愛知県安城市に計画された立体駐車場である。敷地内には緑地を積極的に設け、自然環境の保全や創出に配慮した計画としている。
Q1 室内環境	・評価対象外
Q2 サービス性能	・耐用年数の長い配管材料を採用し、配管材の長寿命化に配慮する。
Q3 室外環境(敷地内)	・敷地内には緑地を積極的に設け、自然環境の保全や創出に配慮する。
LR1 エネルギー	・LED照明を採用し、省エネルギーへ配慮する。
LR2 資源・マテリアル	・躯体と仕上げ材の分別が容易な計画とし、部材の再利用可能向上へ配慮する。
LR3 敷地外環境	・燃焼設備を使用せず、大気汚染防止に配慮する。
その他	